

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network
Now

JART情報
<https://www.jart.jp>

2025
No.591
3 / 1

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階
TEL. 03-4226-2211 FAX. 050-3153-1519



2024年度 第5回理事会 開催される (Web併催)

2024年12月7日(土)午後2時より、2024年度第5回理事会が日本診療放射線技師会事務所でWeb会議システムを併用して開催されました。冒頭、上田会長があいさつを行い、「各地域で学術大会が開催され、タスク・シフト/シェアに関連する内容も取り上げられている。告示研修は、次年度が厚生労働省に報告した計画の最終年度となり、都道府県開催は終了となる。現在は順調に進んでいる」と述べられました。

理事会の主な議題は、「2025年度事業計画総括案」「2025年度の組織図」「学術大会の参加費、開催方法」「畦元将吾氏の顧問への推薦」でした。

上田会長からは、2025年度事業計画総括案について説明がありました。主な事業計画と詳細な説明は次の通りです。
①タスク・シフト/シェアの推進②政策要望における地区・地域との情報共有（地域との意見交換が必要）③第41回日本診療放射線技師学術大会の開催④国際事業を通じた会員育成とISRRT等活動への協力（次年度も同様な活動、プレゼンスを高める）⑤医療情報システムの安全管理と医療DXの推進⑥甲状腺簡易測定研修事業の支援（原子力規制庁の協力機関）⑦委員会・分科会改編による組織強化（事業のスリム化、必要な事業の再考）⑧災害時に対応できるシステムづくりと人材育成⑨予防医療分野への取り組み⑩生殖腺防護鉛シールドの使用廃止の啓発（臨床現場への対応）。

また2025年度のスローガンは「安全と信頼、診療放射線技師の使命と責任を果たそう」が提案され、審議の結果、全会一致で承認されました。

園田理事からは、2025年度の組織図について説明がありました。放射線治療分科会は、認定事業を行っていないため廃止し、その一部機能は新設される「がん対策委員会」に移行するとの提案がありました。審議の結果、全会一致で承認されました。

鈴木理事からは、日本診療放射線技師学術大会の参加費、開催方法について説明がありました。物価高騰による学術大会経費の増加、事業のスリム化で開催地区への負担を軽減することを目的とした参加費の改定についてが主であり、会員の事前参加登録費は据え置き、当日参加登録費を15,000円(1,000円アップ)、非会員は会員価格の2倍とする提案がありました。審議の結果、全会一致で承認されました。

上田会長からは、畦元将吾氏の顧問への推薦について説明がありました。2022年までは本会顧問でしたが、厚生労働政務官就任の際に顧問を辞任されていたため、改めて本会顧問として推薦したいとの提案がありました。審議の結果、全会一致で承認されました。

その他の議題としては、上田会長の常勤役員への変更、放射線取扱主任者定期講習業務規程改正、令和6年能登半島地震の会費免除申請、JJ市民公開講座の講師謝金、会誌入札、入会者・退会者・会費免除の承認などが審議され、いずれも全会一致で承認されました。

報告事項として、小川・中村両監事から2024年度中間監査報告があり、監査内容と12件の意見が提示されました。第1回日本放射線医療技術学術大会の評価・検証や新しい業務拡大については、先を見据えた戦略を立てて実行していただきたいとの意見がありました。

堀住事務局長からは会員動向について説明があり、10月末の時点で総会員数が34,126人、組織率は60.0%に到達したとの報告がありました。

他に、各地域理事、各種委員会・分科会から40項目の報告がなされ、資料と共に共有されました。最後に、園田理事から今後のスケジュールが確認され、本理事会は終了しました。

詳細は、本会会誌（第2号）掲載の2024年度第5回理事会会議事録(抄)をご参照ください。

日本診療放射線技師学術大会における演題登録について

本会学術大会における演題登録までの流れについて、倫理委員会では以下の演題区分とフローチャートを策定しております。

演題区分については、カテゴリー分類を「研究」と「報告」に分けています。

2021年に「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が新たに制定され、その後、個人情報保護法の改正に伴い、2022年3月に倫理指針の一部改正が行われ、基本的に人を対象とする研究は、倫理審査委員会の承認を得て行う必要があることから、学術大会の演題募集においても、倫理審査委員会の承認番号などを明記していただくことになりました。「研究」のカテゴリーはこれを受けてのものです。

一方、症例報告や技術報告、日常の診療や業務改善、さまざまな提案などは「報告」というカテゴリーで募集します。

また人を対象としないファントム実験などについては「研究」として、研究計画や結果

の分析ができていない場合には「報告」として発表していただくこともご検討ください。

詳細は、本会会誌2月号から掲載されている演題募集要項をご覧ください。
(倫理委員会)

演題区分

研究	人を対象とした研究	倫理審査委員会の承認が必要
	人を対象としない研究	倫理審査委員会の承認は不要
報告	症例報告	個々の患者についての詳細な報告であり、症状、経過、診断、治療などの詳細についてまとめたもの（ただし症例数については定義しない） 施設のルールに従って所属機関の長の承認が必要
	技術報告	ファントムを用いた実験、線量測定、画質評価、撮影条件の横断調査など、データ取得過程も含め、人の個人情報、医用画像や診療情報をいわず、主に物理的な事実を検証し、その理解を広めることを目的としたもの
	実践報告	日常の業務改善、放射線の安全管理、医療安全、動怠管理、院内教育などの詳細についてまとめたもの 施設のルールに従って所属機関の長の承認が必要
	その他	教育、臨床実習、実習前客観的能力試験など、教育などについての詳細をまとめたもの

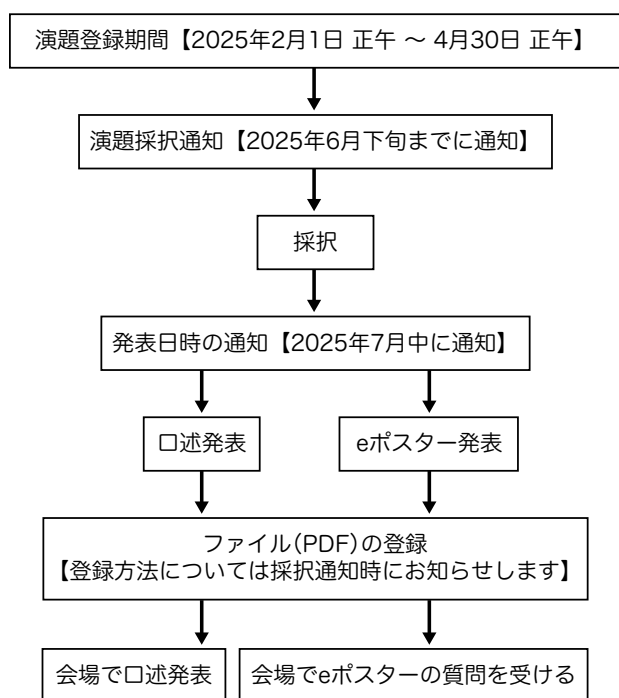
「症例報告」について

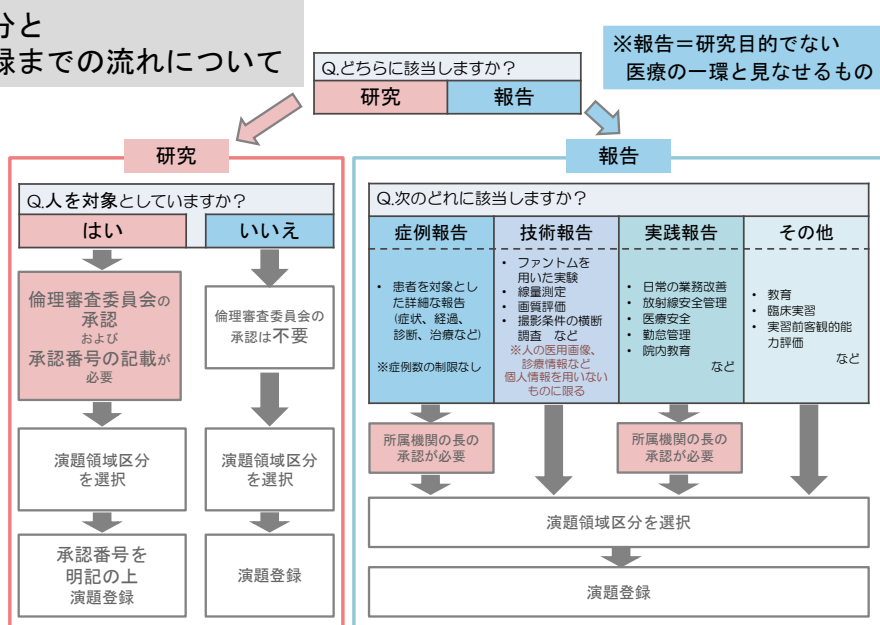
- 1) 症例報告では、個々の症例を提示し、その症例に関する検討を行うものである。結果を解析するなど他へ適用できる医学的知見を導く場合は研究と見なされる。
- 2) 症例報告の症例数は制限を設けない。複数の症例であっても、個々の症例を全て提示する症例報告の体裁が整っていれば、症例報告として認められる。
- 3) 症例の件数のみを報告する場合は、症例報告として認める。しかし、その結果を比較したり傾向を示す場合は、症例報告として認められない。
- 4) 症例報告で演題登録する場合には、所属機関の長の承認が必要である。

「報告」の例示

- 症例報告
Dynamic CT 検査で発見された微小肝腫瘍の症例報告
Covid-19 ワクチン接種が MRI 乳がん検診に影響した一例
- 技術報告
CT 評価用ファントムを用いた被ばく低減のための撮影条件の検討
- 実践報告
IGRT におけるタスク・シフト / シェアの実践報告
- その他
技師教育におけるマニュアル作成の有用性のアンケート報告
(患者へのアンケート調査は、研究カテゴリーとなる)

演題応募から発表までの流れ



演題区分と
演題登録までの流れについて

第10回 ディスプレイの精度管理セミナー 開催される (旧 モニタ精度管理セミナー) (Web開催)

2025年1月18日(土)午後0時55分から、第10回ディスプレイの精度管理セミナーを一般社団法人日本画像医療システム工業会(JIRA)との共催でWeb開催致しました。これまで「モニタ精度管理セミナー」として開講してまいりましたが、画像診断用ディスプレイが特定保守管理医療機器に指定されたことにより、セミナータイトルを変更致しました。新しくディスプレイの品質管理ガイドライン(JESRA TR-0049⁻²⁰²⁴)が制定され、これまで以上に画像診断に使用するディスプレイの選択・品質管理が重要になってきていることから、本セミナーにおいて、最新の品質管理やディスプレイの基本的な知識、品質管理の実態について学習していただくことを目的と致しました。

本セミナーには88人の申し込みがあり、多くの方が興味

を持たれていることがうかがえました。セミナーは、本会 児玉直樹副会長による開講式の後、埼玉医科大学国際医療センターの松田恵雄先生による「医用画像表示用ディスプレイの特徴と品質管理の実態」、児玉副会長より「医療機器化の経緯／概要」の講演がありました。休憩を挟んで、JIRAより「JISと整合を取った新しい品質管理ガイドライン(JESRA TR-0049⁻²⁰²⁴)」の紹介があり、続いて大船中央病院で実際に対応されている青木陽介先生より「病院での品質管理について」と題してご講演いただきました。最後に質疑応答がなされた後、閉講式が執り行われ、終了となりました。

来年度以降も、本会とJIRAとが共催してディスプレイの精度管理セミナーを開催する予定となっておりますので、ぜひご参加ください。

災害支援登録診療放射線技師の登録について(お願い)

本会では、令和6年能登半島地震での支援活動の経験を踏まえ、大規模自然災害における支援要請に対しより迅速に対応することを目的として、支援活動に協力意思のある会員を「災害支援登録診療放射線技師」として事前に登録させていただくことと致しました。

登録は、JARTIS内「会員情報」の「災害時派遣(候補)者」として登録・変更するから登録いただけますので、災害支援に関心のある方はぜひご登録をお願い致します。

なお本登録は、あくまで災害支援技師のデータベース構築を趣旨としており、登録すれば必ず支援活動ができる、必ず支援活動に行かなければならない、というものではないことを申し添えます。

大規模災害を身近に感じるようになった今、本会の新たな取り組みについてご理解いただき、多くの会員にご登録いただきますようお願い致します。

■ 本件に関するお問い合わせ：公益社団法人日本診療放射線技師会ホームページ(<https://www.jart.jp/>)のチャットボットからお問い合わせください。

INFORMATION

2024年度 放射線治療分科会主催生涯教育セミナー（治療計画・実践編）[東京都] 開催報告

放射線治療分科会 委員 佐藤 清和（東北大学病院）

2024年12月21日（土）・22日（日）の2日間のスケジュールで、東京都立大学（東京都）で『乳がん』術後放射線療法～治療計画から照射までの実践～をテーマとした生涯教育セミナーが開催されました。

本セミナーは、乳がん術後の治療計画からプランチェックに至るまでの、一連のプロセスに必要な基礎知識およびスキルを体系的に学ぶことを目的としています。参加者は9人（申込者11人中欠席2人）で、2人につき治療計画装置1台を使用する実習形式の講習会として実施されました。

冒頭では、アイスブレイクを図る目的で、参加者の自己紹介に加え、治療装置や治療計画装置の保有状況・使用経験、各施設の運用状況などを共有しました。その後、適切な治療計画を行うために必要とされる臨床的・物理的な基礎知識についての解説を行い、治療計画装置の基本操作に関する演習を実施しました。続いて、乳がん術後放射線療法における治療計画の実践という内容で、乳がんの臨床や治療戦略、照射範囲の設定、ビームアレンジメントなど、具体的な治療計画の実践的な知識（Tips）を交えた講義が行われ、受講者それぞれが治療計画を作成しました。また治療計画におけるエラーが放射線治療全体に及ぼす影響が大きいことを踏まえ、エラーを含むプランのチェックを実践する機会も設けました。さらに広島大学病院の中島健雄先生によるプランチェックの重要



集合写真

性についての講義を通じ、治療計画に対する理解をより深めることができました。最後に、事前アンケート結果や治療計画に関する質問などに回答しながら議論を行いました。演習を多く取り入れることにより、乳がんの治療計画からプランチェックに至るまでの一連のプロセスに対する理解が深まったものと考えます。事後アンケートでは、参加者の皆さまより高い評価を得ており、今後も内容をアップデートしながら、さらに発展した内容を検討したいと考えています。

本セミナーにご参加いただいた皆さま、プランチェックに関する講義を担当いただいた中島先生、会場準備にご尽力いただいた東京都立大学の張維珊先生、そして本セミナーの開催に際し多大なるご協力を頂いた関係各位に心からお礼を申し上げます。



受講風景（講義）



受講風景（実習）



修了証授与

日本診療放射線技師会 公式LINEがスタートしました！

日本診療放射線技師会では、皆さまに迅速に情報提供を行うため、公式LINEアカウントを開設しました。このアカウントでは、重要なお知らせや、最新のイベント情報、研修のご案内などをお届けします。

■ 主な活用内容

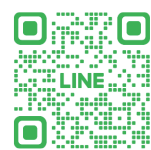
- ・会の最新ニュース：重要な活動報告や取り組みについてお知らせします
- ・研修やセミナーのご案内：参加募集や申込方法についてお知らせします
- ・災害時の緊急連絡：速やかに情報を共有します

■ 利用方法

LINEで簡単に登録できます。以下の手順でご利用ください。

1. スマートフォンでLINEアプリを開きます。
2. 公式アカウント検索で「日本診療放射線技師会」と入力、または右記2次元バーコードをスキャン。
3. フォローするだけで情報が受け取れます。

本会の活動をより身近に感じていただけるよう、情報発信を充実してまいります。ぜひ、公式LINEにご登録ください！



INFORMATION

2024年度 災害支援認定診療放射線技師 講習会 開催報告

災害支援認定診療放射線技師分科会 分科会長
中田 正明（兵庫県災害医療センター／神戸赤十字病院）

2025年1月19日（日）、兵庫県災害医療センターにおいて災害支援認定診療放射線技師講習会が開催されました。

本会は、原子力等放射線災害および自然災害において、被災地での医療救済活動の役割を担う診療放射線技師を災害支援診療放射線技師としてその活動を推進し、特に、災害支援診療放射線技師のリーダーとしての役割を担う診療放射線技師を「災害支援認定診療放射線技師」として認定しています。認定申請のためには、本講習会の受講および確認試験に合格することが要件となります。

講習会は30人の定員制で、座学と放射線サーベイ、下肢静脈超音波検査の実習、災害対応シミュレーション（支援・受援）で構成されています。

事前e-ラーニング学習

1. 災害の概要と関連法規
2. 災害時医療の概要
3. 放射線災害の特徴と防護および緊急被ばく医療
4. 医療施設への撮影業務支援の留意点と管理区域外X線撮影
5. 放射線災害での被ばく相談対応
6. 放射線サーベイ・除染
7. 避難所における下肢静脈超音波検査の留意点

集合形式講習会 [2025年1月19日（日）]

- | | |
|-------------|---------------------|
| 9:00～10:00 | 1. 放射線サーベイ実習 |
| 10:10～11:40 | 2. 下肢静脈超音波検査実習 |
| 11:40～12:40 | 昼食 |
| 12:40～13:35 | 3. 災害対応シミュレーション（支援） |
| 13:40～14:40 | 4. 災害対応シミュレーション（受援） |
| 14:40～14:50 | 閉会あいさつ（修了証書授与） |
| 15:10～16:10 | 確認試験 |

放射線サーベイ実習では、まずグループ内の1人にタイベックススーツやブーツカバー・手袋・マスクなどをグループで協力して実際に身に付けていただきました。また実際に測定装置を使用し、実践的な実習を行いました（写真1）。

下肢静脈超音波検査実習では、避難住民の下肢静脈血栓症の好発部位である膝窩静脈、深部静脈、腓腹・ヒラメ静脈を中心に超音波解剖と走査実技を行いました。この講習は、超音波検査未経験者であっても基本的な下肢静脈の超音波解剖と走査実技を理解できるような実習を行っており、実習環境は非常に充実しています（写真2）。

午後からは「支援」と「受援」の災害対応シミュレーションを行いました。支援では、実際に災害被災地へ支援活動することを想定して、どのような準備が必要で、被災地ではどのような活動をし、留意するべき点は何があるかなど具体的



写真1



写真2

な点についてディスカッションしました。受援では、自らが被災者側となった場合の対応についてシミュレーションを行いました。これは主にBCP（業務継続計画）を中心に、自分たちの施設や放射線部門でどのような準備が必要であるかや、実際に被災後の対応についてディスカッションを通じて学習しました（写真3）。



写真3

2024（令和6）年1月1日に発生した能登半島地震においては、多くの医療従事者が支援活動を実施し、本会からは計8人の支援技師を穴水町の医療施設に派遣し業務支援を行いました。

災害大国といわれる日本では、大規模災害がいつ発生してもおかしくはない状況であるため、社会に貢献できる認定制度を目指して進めていきたいと考えています。今後とも、会員のご理解とご協力のほど、お願い申し上げます。

最後に、本講習会開催に当たり講師を務めていただきました会員の皆さま、超音波装置をご提供いただきましたGEヘルスケア・ジャパン株式会社、コニカミノルタジャパン株式会社、長瀬ランダウア株式会社の皆さま、日本診療放射線技師会事務局スタッフの皆さまに感謝を申し上げます。

業務拡大に伴う統一講習会 開催報告

大分県

公益社団法人大分県放射線技師会 理事 桑原 宏

大分県放射線技師会では2025年1月25日(土)・26日(日)の2日間、よつばファミリークリニックで「業務拡大に伴う統一講習会」を開催致しました。当会では2014年の静脈注射(針刺しを除く)講習会の開催以降、翌2015年から年に2回のペースで「業務拡大に伴う統一講習会」を開催してきました。大分県各地に出向いて開催したことを懐かしく思いながら、開催準備を進めてまいりました。

本年度は会場スペースの関係から定員を20人とさせていただき、15人にご参加いただきました。大分県内だけではなく、福岡県や熊本県からも参加がありました。すでに告示研修を受講した方も多く、注射針や肛門挿入カテーテルの扱いには慣れている受講者が多かったのですが、抜針に特化した実習では、抜針後の処置対応に改めて注意が必要であることを実感されていました。

BLS実習では医療機関での開催を生かし、造影CT時の急変



を想定した訓練を実際のCTを使用してグループ別で行いました。長時間の実習となりましたが、緊張感のある雰囲気の中で行うことができました。講習会に参加した皆さまが現場に反映していただければうれしく思います。

2024年度 第1回超音波実技講習会 「腹部領域」開催報告

日本診療放射線技師会 副会長 江藤 芳浩

2025年1月26日(日)、専売ビル「専売ホール」で、2024年度第1回超音波実技講習会「腹部領域」が開催されました。

本講習会は、超音波検査未経験者・初心者、または超音波検査をセカンドキャリアとして考えているシニア会員などを対象に、年に3回開催しています。

講習会の座学部分については事前にe-ラーニングを視聴していただき、講習会当日は十分な時間をかけて実技指導のみを行う構成としています。またしっかりと基礎を身に付けていただけるよう、超音波装置5台、講師10人で、定員30人を5班に分けて集中的に指導が行われます。今回は25人の受講者に参加いただきました。

腹部領域では、「肝」「胆・胆道」「脾・脾臓」「腎・膀胱・婦人科領域」「腹部大動脈・消化管」の5領域を対象に実技を行います。プローブの持ち方や動かし方、対象臓器ごとの基本走査法やコツ、走査上の注意点やピットホールなどについて、超音波検査のエキスパートである講師が、受講者一人一人に丁寧に指導します。未経験者や初心者にとって超音波検査の習得は座学だけでは難しいため、実技のみ集中的に行う本講習会は大変有意義であり、今回も受講者が熱心に受講さ

れていました。

本講習会は、講習会で得た知識と走査技術を臨床業務に生かしていただくとともに、キャリアアップや在宅医療、大規模災害支援における診療放射線技師の関わりを超音波検査によって実現していただく期待も込められています。本事業がますます発展し、一人でも多くの会員が超音波検査に携わっていただくことを願っております。

最後に、本講習会開催に当たり実技指導をしていただきました講師の皆さま、超音波装置をご提供いただきましたコニカミノルタジャパン株式会社、株式会社フィリップス・ジャパンのスタッフの皆さま、日本診療放射線技師会関係各位に感謝を申し上げます。



告示研修 開催報告

鹿児島県

公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会 副会長 藤崎 拓郎

2025年1月12日(日)、2024年度3回目の告示研修(実技)を開催致しました。会場は、第1回から今回の12回目まで、鹿児島医療技術専門学校のご厚意で学生実習室と講義室を借用していますが、もともと実習施設であることから、床などにシート養生の必要がなく、消耗品なども置かせていただいていますので、われわれが運んだり、保管場所の心配をしたりすることがなく大変助かっています。

さて、今回の研修は、35人の受講者数と少なめでしたが、県外に就職した鹿児島県出身の方が里帰りを兼ねたり、離島の方が出張を利用したりするなど、工夫して受講していました。また最近では静脈実技での受講者の熱心な姿を見て、この研修が必要なものであるとの認識が受講者に浸透してきたと実感しています。当初、医師の派遣要綱が厳しくその調整に苦労したり、スタッフや受講者のコロナ感染などで急な対応を要したりといろいろありましたが、おかげさまで本県では、これまでにおよそ500人の方が受講されていて、他県に遅れをとらずに開催できたのではないかと、担当者としては内心「ほっ」としています。



最後になりましたが、この場をお借りしまして、これまでに快くご協力いただいた鹿児島大学医学部放射線科医局、いづろ今村病院看護部、鹿児島医療技術専門学校の関係者の皆さま、休みをつぶして協力してくれたスタッフ仲間の皆さま、そしてたびたび書類不備に付き合っ下さったJARTの担当者の皆さまに感謝申し上げます。

沖縄県

一般社団法人沖縄県放射線技師会 会長 久場 匡

2025年1月12日(日)・13日(月・祝)の2日間、沖縄県立南部医療センター・こども医療センターで、2024年度第6回・第7回の告示研修(実技)を実施致しました。2日間にわたる連続開催となりましたが、多数の参加者が集まり、会員のタスク・シフト/シェアに対する関心の高まりを感じることができました。

また本年度は、宮古および八重山での開催も企画されており、宮古では2024年7月27日(土)・28日(日)の2日間で研修を無事に開催しました。島外からの参加も多く、研修は成功裏に終了しました。しかしながら、11月16日(土)・17日(日)に予定されていた八重山での開催は、季節外れの台風の影響を受け、関係者一同苦渋の決断の末、中止とさせていただきます。参加を予定されていた皆さまには、この場を

借りて深くおわび申し上げます。

2025年度は、沖縄県としては5回の告示研修を計画していますが、16人以上の参加がなければ開催ができないという条件付きの開催となり、また最後の地方開催となります。沖縄県内の会員の皆さまには来年度中の参加をお願いしたい所存です。近隣で未受講の方がいらっしゃる場合には、ぜひ、お声掛けいただきますようお願い致します。

最後に、毎回開催場所を提供していただいている沖縄県立南部医療センター・こども医療センターの皆さま、運営スタッフの皆さま、そしてJART事務局の皆さまに心より感謝申し上げます。以上をもちまして、2024年度告示研修の開催報告とさせていただきます。



INFORMATION



第4回

第41回日本診療放射線技師学術大会

福井への道 Go To FUKUI

副実行委員長 上坂 大輔

(公益社団法人福井県診療放射線技師会 理事)



奥越地区の紹介

福井への道、第4回は奥越地区についてご紹介致します。

まずは、福井といえば、恐竜博物館。**福井県立恐竜博物館**は、恐竜化石の一大産地である福井県勝山市に建てられた、恐竜を中心とする地質・古生物学博物館です。恐竜博物館はドーム型の常設展示室を持ち、「恐竜の世界」「地球の科学」「生命の歴史」の3つのゾーンに分けられています。広大な無柱空間には、恐竜の全身骨格や化石や岩石、ジオラマなどが展示されており、恐竜をはじめとする地質・古生物の世界を堪能することができます。



XRバス内部イメージ画像(左)、恐竜博物館(右)(公式サイトより)

【アクセス】車で福井市内より30分ほど、もしくは福井駅にご到着後、えちぜん鉄道へ乗り換え勝山駅(終点)で下車し、バスまたはタクシーで10分ほどで行けます。遠くからでも独特の銀色の卵の形の建物が見えてくるので、ワクワク感が増します。鑑賞券は事前購入されるといいです。お勧めは、JR福井駅発⇒恐竜博物館行きの「**新感覚XRバス WOW RIDE いこっさ! 福井号**」です。バスに座っているだけで、VRゴーグルを着用することなく、**リアルなVR・AR映像を楽しみながら、恐竜や福井の歴史・文化を学ぶ1時間の旅**をご提供します。スムーズな移動中に、まるで歴史の中に飛び込んだかのような体験ができます。これは、かなりお勧めです!

続いて、**天空の城(越前大野城)**です。織田信長に仕えていた武将、金森長近(かなもりながちか)が築いたお城で、自然石をそのまま積み上げた**野面積み(のづらづみ)**という工法で作られています。

越前大野城が天空の城のように浮かんで見える姿を撮影するための条件をお伝えしたいと思います。

天空の城 越前大野城
(福井県大野市観光公式サイトより)

【撮影スポット】お城から西に約1kmにある犬山の登山道を登った先です。

【時期】10月~4月(中でも11月は出現頻度が高い)

【時間】明け方から午前9時頃まで

【気象条件】前日の湿度が高い(雨など)、前日の日中と翌日朝の気温差が大きい

などなど、雲海に包まれ現れる姿が見られた方は、奇跡、感動ものだと思います。ぜひ、一度トライしてみたいはいかがでしょうか。

他にも、西日本最大級のスノーリゾートといわれる**スキージャンプ勝山**がありますし、最近、話題沸騰、外国人観光客にも人気の**越前大仏**は、来客が昨年より約20倍近く増加しているそうです。奈良の大仏より大きな大仏、五重塔はもちろんですが、SNSで人気を集めているのが**壁面にずらりと並んだ1,281体の石仏**。荘厳な雰囲気と圧倒的なスケールが“映える”と人気になっているようです。他にも映える仕掛けがあるそうですので、ぜひ現地へお越しください。



越前大仏(左)と壁面の1,281体の石仏(右)(公式サイトより)



第41回

日本診療放射線技師学術大会
The 41st Japan Conference of Radiological Technologists放射線技術の
イノベーション〜期待される診療放射線技師の
役割に応えよう〜2025.
9/12(金)▶14(日)会場 福井駅前
AOSSA、ハピリン他

[現地＋オンデマンド配信]

<https://www.kwcs.jp/jcrt41/>会長 上田 克彦 (公益社団法人
日本診療放射線技師会 会長)大会長 村中 良之 (公益社団法人
福井県診療放射線技師会 会長)

主催：公益社団法人 日本診療放射線技師会

共催：公益社団法人 福井県診療放射線技師会

後援：厚生労働省(予定)、公益社団法人 日本放射線技術学会、
福井県、福井市大会事務局 公益社団法人福井県診療放射線技師会
〒910-0851 福井県福井市米松1丁目16-31 NTビル2階
E-mail: 41jcrt@gmail.com

JART Plusをご存じですか？

シリーズ連載
series serialization

五感 — five senses

昨年6月に、JART情報システム（JARTIS）に会員向け無料コンテンツが開設されました。現在、アップロードされているコンテンツは5つです。皆さんが一番利用されているコンテンツはどれになりますでしょうか。まだ、ご利用されていない方のために、簡単ですがコンテンツをご紹介します。

「JART会誌」ボタンからは、電子ブックシステムを最新号から年度単位でご覧いただけます。もちろん検索機能と印刷機能も付いていますので、気になる文言の検索や記事のダウンロードも可能です。

「JART archive」ボタンからは、創刊号からの会誌の他にも、Network Now、JART FLASHや総会資料などもキーワードを入れて検索やダウンロードが可能です。「JART会誌」電子ブックシステムでは、各号ごとの検索に対応しておりますが、このJART archiveでは年をまたいだ検索にも対応しています。1948年12月に発行した創刊号から読むことができ、CTやMRIの黎明期の記事は若い方にもぜひ読んでいただきたい内容です。

「STAT画像所見報告」ボタンからは、日本医学放射線学会（JRS）、日本放射線科専門医会・医会（JCR）および日本診療放射線技師会（JART）が協力して作成し、診療放射線技師が報告すべき緊急性の高い疾患の画像（STAT画像）を解説とともに見ることができます。自信を持ってSTAT画像報告ができ

る技師が一人でも増えることを期待しており、今後、症例数を増やしていくべく準備を進めています。

「教育用セミナー」ボタンは、倫理や診療報酬、薬機法、医療機器、放射線管理に関する企画の学習コンテンツが多数そろえられており、毎年更新されています。外部サイトにジャンプしますので視聴登録が必要ですが、もちろん無料です。オンデマンド視聴形式で繰り返し聞くこともできますので、ぜひ、視聴の申し込みをお勧めします。

また他のコンテンツとは趣が異なっていますが、断然お得な会員限定のお買い物サイトボタンもあります。「生活応援フェア・ぷらす」のボタンをクリックしていただくと日用品のお買い物サイトが開きます。こちらも無料登録が必要ですが、街中のドラッグストアよりも安価で宅配をしてくれます。一回に4千円以上の買い物をされますと送料は無料になりますので、洗剤など重量がある商品をまとめて購入されますと大変オトクかと思います。ぜひ、ラインナップされている商品の値段を比較していただき、オトクな商品を購入していただければと思います。

地味に始まったJART Plusですが、ぜひ、多くの会員各位に体験いただき、JART会員のメリットを感じていただければと思います。これからも、JART Plusはコンテンツの追加を検討してまいります。乞うご期待！（文責：江端 清和）

3月・4月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

- 告示研修（実技研修）／業務拡大に伴う統一講習会／診療放射線技師基礎講習 基礎技術コース（会場型）：
本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム（JARTIS）をご参照ください。

[e-ラーニング（ストリーミング方式）]

- | | |
|--|--|
| ■ 告示研修（基礎研修） | 2026年3月31日（火）午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。 |
| ■ 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針
オンラインセミナー | 2027年3月31日（水）午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日からセミナー終了まで何度でも視聴いただけます。 |

- オンラインセミナー（在宅）：本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム（JARTIS）をご参照ください。

※このご案内の公開時に、定員に達して申し込みができない講習会・セミナーがある場合がございますのでご了承ください。

JART求人広告掲載について

INFORMATION

会誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ（手続きについて→各種様式→その他）よりダウンロードしてご確認ください。

なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

事務所
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日（7月13日）および年末年始（12月29日～1月3日）は執務致しません。